令和８年度　学校関係評価委員会

学校法人有坂中央学園　群馬法科ビジネス専門学校

学校関係者評価委員会
群馬法科ビジネス専門学校 学校評価委員会は「令和８年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和８年６月15日に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会
　企業等委員：猪俣 猛
　企業等委員：宮脇 渉
　保護者会：蛯原 優子
　卒業生：梅原 振一郎

２．学校の教育目標
　公平無私に市民へ奉仕する公務員の育成と経済活動を推進できるバランス感覚の優れた豊かな人間性を持つ人材を育成し社会に貢献する。

３．本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
・本学の教育内容・評価に関し、広く告知できる環境を整備する。
・告知に値する成果を得られるよう、教育環境を充実する。

４．令和８年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(群馬法科ビジネス専門学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1．教育理念・目的・目標	●教育理念等を踏まえ、専門学校としての目的及び目標や、養成する人材像を明確にしており、大きな問題は見当たらない。	○社会から求められる公務員像を常に確認し、公務員として必要とさせる知識や技術を習得できるカリキュラムを構築していく。

2．教育課程、教育の実施、学修成果	●企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等の授業は社会的にも大きな影響があり、効果的に行われていると思われる。公的な機関との連携は難しい部分もあると思うが、より良いカリキュラム構築のためにも努力を要する。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定する必要がある。	○学校の目的・目標及び養成する人材像を踏まえ、必要な教育課程となるよう、継続的な見直しを行っていく。また、教育課程全体の系統性・段階性をさらに充実させ、基礎から応用・実践へと着実に学びを深められるカリキュラム編成に努めていく。企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合においては、割合を算出し、明示することで対応する。
3．学生の受入れ学生支援	●学生募集や支援においては他部署との連携が必要となる。生活安全センターや中央コミュニケーションサロンを設置しているようなので、今後も学生が安心して学生生活を送れるよう努めてほしい。	○障害者に対するバリアフリーへの対応が不十分であると感じている。また、学生の抱える不安や悩みは、より多様化していくと考えられるため、対応するための施設や組織の構築が必要であると考える。
4.教育実施組織・教員	●職員の不足や高齢化が進んでいるとのことで、必然的に職員一人に対する仕事量が増加すると思われる。人材不足が叫ばれる現在において、難しい部分も多いかと思うが、職員の働きやすい環境づくりのためにも、改善を望む。	○職員採用が課題の一つであると感じている。若手職員がおらず、職員の年齢幅に偏りがみられる。早期に動き出し、良い人材の発掘と育成を目指し努力していく。
5.教育環境	●他校では留学生が増えていくなど学生の考え方や文化の多様化が今まで以上に進んでいく。学生の休憩、食事のためのスペース確保はできているものの、十分ではないとのことで、学生の満足度を上げるためにも学校の施設・設備等の環境改善は必要だと考えられる。	○学生が安心して学習や学校生活を送れるよう、施設環境の改善に取り組むとともに、学生のニーズを踏まえた施設環境の改善を継続して検討していく。また、施設や設備の老朽化を感じるため、計画的に対応していきたい。

６.教育活動の基盤と改善・向上の取組	●学生たちが日頃の学習や各種活動を通じて取り組んでいる内容や成果を、地域や社会へ発信する機会が十分ではないとのことで、学校の魅力や学生の成長を広く発信するための取組を充実させる必要がある。	○フィールドワークや成果発表の場に外部機関の審査員を招き、専門的な意見や評価をいただくとともに、学生の学習成果を広く発信する機会の充実を図っていく。

５．総評

教育課程の編成や学生の学修成果においては着実な成果を上げている一方、組織体制や施設環境、社会発信の面において、今後の持続的な発展に向けた課題が明確になっている。今後は、教育実施組織の強化や、多様化する学生支援のための施設・設備の改善を重要課題とし、来年度に向けた環境整備を推進していく。また、昨年度は過去最高の公務員試験の合格率を出すことができたため、その成果を維持・向上すべく、より良いカリキュラムを構築できるよう、職員一丸となって準備を進めていく。今回いただいた貴重なご意見を学校運営に反映させ、社会から必要とされる専門学校としての地位を確立していきたい。